P04

低コスト化実証事業・コストの見える化の実施

十勝西部森林管理署
森林整備官　小野　代補
森林官　竹部　修二
森林官　三ツ山永一

研究の背景･目的

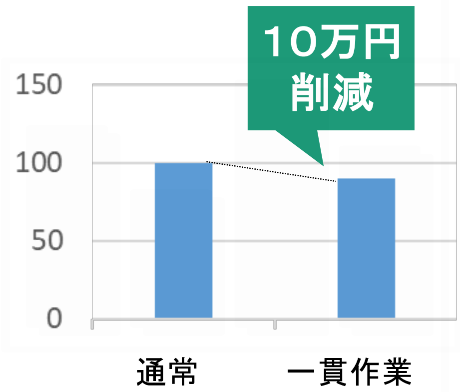
主伐期を迎え、造林面積は増加する一方、担い手不足が深刻化

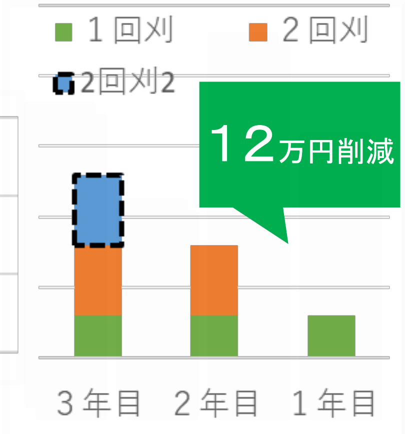
造林作業の省力化･低コスト化を目的とし、以下の取組を実施

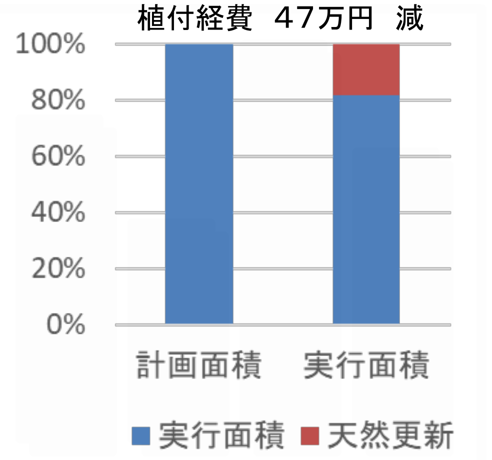
実施場所：
清水40林班ま･や小班
造林面積：2．27ha

研究の内容･成果

	生産と造林の一貫作業（R1）	下刈りの省略（R2～）	広葉樹群の保残
内容	素材生産から大型機械地拵まで、一体的に積算および作業を実施	1年目から下刈を省略 2年目も下刈を省略（3年目以降植生状況により判断）	天然力を活用しつつ地拵･植栽面積に係るコスト削減
効果	間接事業費を削減 素材生産と造林での大型機械の併用により、作業効率が向上	下刈り経費を削減	面積の約16%を減 地拵経費　18万円　減 植付経費　47万円　減
課題	生産と造林が別パーティーの事業体には、一貫作業のメリットの十分な事前説明が必要	下刈り要否の見極めが必要	更新の是非の判断 天然更新木の管理







現段階で87万円、下刈3回の削減（487万→400万）

今後の展開

植栽木（クリーンラーチ）の育成

無下刈でも順調に生育するか？
どの程度で間伐する必要があるか？

天然更新木の活用

広葉樹（カバ類）の稚樹

広葉樹等、天然更新木をどのように管理していくか？

広葉樹を育成できるか？エゾシカの生息は確認されてます